

市民の皆様へ

2030年の稲城に向けたご提案を受け付けています！

稲城市では2030年の稲城に向けて、長期総合計画を策定します。
あなたの考える2030年の稲城の将来像について、お聞かせください。

グループ・団体別懇談会を開催します

希望するグループや団体との懇談の席を設け、市職員がお話を伺いますので、積極的にお申込みください。

対象 市内在住・在勤・在学の5人以上のグループ・団体

必要事項 ①希望日時 ②開催会場
③代表者住所・氏名 ④電話番号

申込先 市役所5階 企画政策課窓口
電話 042-378-2111、FAX 042-377-4781
メール chou_kei5@city.inagi.lg.jp

ホームページからのご提案はこちら

https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form_enq/formmail.cgi?d=chouki

個別の返答はいたしませんので、
あらかじめ
ご了承ください。



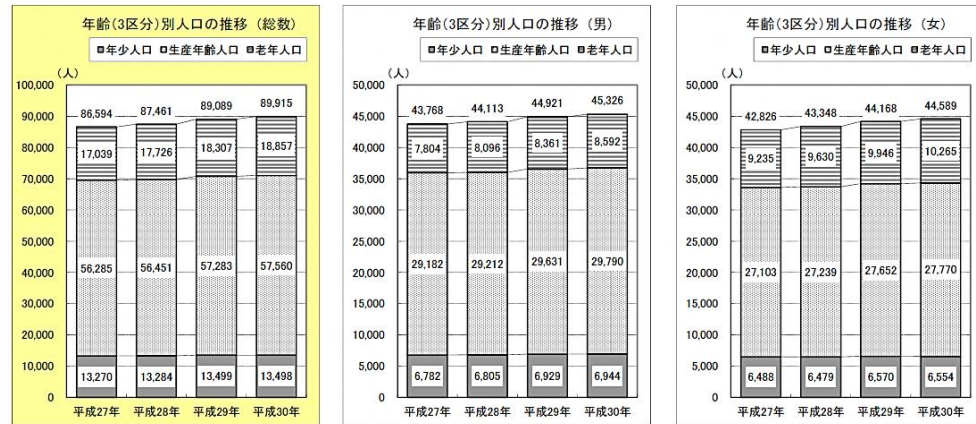
稲城市ちょっとメモ

年齢別人口割合の推移は？

年齢（3区分）別人口を男女で比較すると、年少人口（0～14歳）・生産年齢人口（15～64歳）は男性の方が多く、老年人口（65歳～）は女性の方が多くなっています。

年齢（3区分）別人口の割合の変化を見ると、年少人口・生産年齢人口は徐々に減り、老年人口は増え続けています。

（『統計いなぎ（平成30年度）』）



これからの開催予定

第13回 令和元年6月14日（金）時間：19：00から、会場：地域振興プラザ4階 大会議室
・市民意見公募回答内容の確定、提言書の確定に向け協議します。

第14回 令和元年6月28日（金）時間：19：00から、会場：地域振興プラザ4階 大会議室
・市民会議提言書を市長に提出します。



©K.Okawara・Jet Inoue

2030年の稲城を描く

発行 稲城市
編集 企画部 企画政策課 長期総合計画担当
〒206-8601 稲城市東長沼 2111
☎042-378-2111（代表） 内線 532
e-mail chou_kei5@city.inagi.lg.jp

2030年の稲城を描く

No.12

市民会議 5月31日開催

第12回 市民会議を開催しました

5月31日、地域振興プラザにおいて「2030年の稲城を描く市民会議」第12回を開催しました。5月1日から5月17日までに実施した市民意見公募の結果について、全員で話し合い、市民会議としての回答を検討しました。
今後、市民意見公募への回答を確定し、併せて、市民会議提言書の最終案の検討を踏まえ、確定案とする予定です。

2030年の稲城を描く市民会議



- ①市民意見公募に対する回答の検討
- ②市民会議提言書の修正検討
- ③市民会議提言書の表紙案の決定

市民意見公募(5/1~5/17)への市民会議としての回答を検討しました！

主な提案意見等	市民会議の回答
積極的にボランティアをするという、いわば無償活動に参加できる環境にないと感じています。そこで、インセンティブとして地域通貨の発行を提案します。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの動機づけ、イベント化のためにインセンティブをつけることは有効であると、市民会議でも話し合いました。 提言書(案)15頁に「ボランティアの促進のためには、インセンティブをつけることも有効と考えます。」とまとめました。 また、既に市では有償化されたボランティア制度(市民活動ポイント制度等)があり、提言書11頁でも「有償型ボランティアも含めた参加者の拡大を期待します。」とまとめています。
地域コミュニティの活性化と今後のまちづくりにどのような機能が必要なかを定義し、不足する機能を再配分する等の対策が必要と考えます。	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの機能割り振りが必要とは市民会議として考えてはいません。提言書の中では、自由闊達にコミュニティができて、そのコミュニティ同士の連携が進むまちを期待しています。
元気な高齢者による農家支援を。	<ul style="list-style-type: none"> 農と高齢者の関りにつきましては、「健康寿命の延伸」といった視点で市民会議では話し合いました。 提言書(案)18頁の記述を「土や農に触れることが高齢者の生きがいともなり、健康寿命が延伸するといった効果も期待されます」と修正します。
本市の歴史遺産を活用した、市への愛着度の向上促進を。	<ul style="list-style-type: none"> 稲城市の歴史遺産については市民会議で話し合っておりませんが、提言書(案)6頁の「もっと魅力を発信するまち」では、市民が稲城の魅力を再認識し、愛着をもって地域を活性化させていくことを提案しています。稲城の歴史も稲城の魅力であり、資源であると考えます。そのため、提言書(案)7頁に追加します。
「2030年の稲城を描く市民会議提言書案」というテーマに対し、短期で実現可能な提言が多いように思います。2030年の稲城を描こうとした時、約10年という長期的なプランが必要になると考えます。	<ul style="list-style-type: none"> 市民会議では、今回の計画期間が満了する2030年に、稲城市がどのようなまちになって欲しいか、どのようなまちに住んでいきたいのか、その将来像を、参加する市民の視点で自由に語り合ってきました。 提言書(案)には、一見して短期的な内容も含まれていますが、これらは、将来像を実現するための手段として話し合われたものです。「市民が普段の生活の中で気づいた改善点」の積み重ねにより、2030年、より良いまちになって欲しいと考えたものです。
もっと魅力を発信するまちについて、どんな良い結果が得られるのか。	<ul style="list-style-type: none"> 市民会議では、誰もが安全に快適に暮らせるまちであるためにはどうしたらよいか、話し合いました。稲城市にはたくさんの魅力があり、それを多くの市民が再認識し、共有していかれる将来を期待して、「魅力を発信」とまとめました。 情報発信することで、みんなが稲城に誇りを持つ、あるいは他市の人がうらやましいと思う、そういうことが期待出来ると考えています。
自分でつくる つながり合うまちについて、そこに参加しやすいか、続けやすいかが問題である。	<ul style="list-style-type: none"> 数あるコミュニティの抱える課題、コミュニティとのつながり、コミュニティ同士のつながりをつくる上での課題、情報が行き届かない課題。これらについて、市民会議でも話し合いました。ご意見いただいたように、課題はたくさんあると考えます。将来に向けて、人々のつながりが広がっているまちをつくっていくためには、こういった課題について、検討し続けていくことが必要と考えます。
安心して快適に暮らせるまちについて、プライバシー保護と危険増大との表裏の状況にどう対処するか課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 出歩けない高齢者が孤立しないための方策について、市民会議でも話し合いました。やはり、プライバシーの問題等難しいため、「公」での実施が望ましいとして、提言書(案)11頁で「交流の場や地域のボランティアグループ等への参加が難しい人に対しては、地域包括支援センター等の公的機関による訪問、サポートを充実することにより、高齢者が孤立しないまちであることを望みます。」とまとめました。 ボランティアについても、生じる様々な問題に対応し、円滑な活動につなげるため「専門的な知識や経験を持つ人材等がコーディネーターとなり、運営がサポートされていることを期待します。」とまとめています。
誰もがずっと住んでいたいまちについて、まちを誇ることやきれいにするのは居住努力の結果ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> 「世界中きれいにしたいものです」というのは、おっしゃる通りです。「住んでいるまちだから」というのは、誤解が生じるかもしれません。まずは身近なところからといった意識を子どもから大人まで持つべきであると市民会議では話し合いました。 また、小中学生アンケート調査でごみが多いという意見が多く、自分たちみんなでごみをなくすまちをつくる取組みによって、安心して快適に暮らせるまちとなることを記述しています。 提言書(案)22頁の記述は「私たちの住んでいるまちをきれいにしよう」に修正します。
提言書案において、障害者が置き去りにされている。(触れられていない。)	<ul style="list-style-type: none"> 市民会議では、障がい者についても時間をかけて話し合いをしましたが、その中で、子どもや障がい者、高齢者の方を含めて「誰もが」という視点から、全ての人を含んで考え方を整理しました。そして、色々な人が自分達から助け合えるまちとなれるように、コミュニティの「場づくり」が必要と提言しています。 なお、障がい者のご意見等は、市も別な機会ですっきりと意見を聞いていくことを確認しています。
梨や桜を街路樹にした街道を。	<ul style="list-style-type: none"> 梨の花や、桜の花を稲城の魅力の一つとして活かすことは、市民会議の中でも活発に意見が出たところです。提言書(案)20頁に「子どもたちが梨に触れる機会、市民が梨を口にする機会、市民全体が梨と接する機会が増え、梨に対する愛着が深まることを期待するとともに、梨畑は、市民にとって愛着のある梨を産み出すだけでなく、親しみのある緑でもあり、梨畑が身近に保持されていることを期待します。」とまとめています。
緑と文化を生かした付加価値を持たせる街づくりを。	<ul style="list-style-type: none"> 「自然や文化を生かした人が集まる場の整備」については、市民会議でも大いに賛同するところです。こういった手法で実現できるかは、今後の検討になるかと考えますが、提言書(案)16頁にもある「市民の協力による里山トラスト、緑のトラスト(クラウドファンディング)」といった意見も出ています。
行政一体となって市民へ情報を届けるサービスの向上を図るべき。	<ul style="list-style-type: none"> ご意見にあるようにイベント等や、その他の多くの分野で情報伝達・取得の方法があまりないといった意見は市民会議の中でも多く出ました。効果的な情報発信により、みんな楽しさを共有できるまちであることを期待して、提言書(案)6頁の「もっと魅力を発信するまち」をまとめています。
駅前交番を増やすべき。	<ul style="list-style-type: none"> 治安といった面では、提言書(案)14頁に「災害への不安や防犯面・交通事故等への不安は、子ども達も含め、多くの市民が感じているものの、現在の稲城市の状況に、私たち市民は概ね満足していると言えます。」とまとめています。 ただし、昨今本市でも不審者の出没がみられ、市民が安心して暮らせる環境を保つうえでも駅前交番は必要と考え、提言書に追加することとしました。

提言書の表紙を検討しました！

